

■ 開催報告 ボランティア塾 in 鶴嶺高校 2021

- ◇日時：2021年11月18日(木)5・6校時 探究の授業
- ◇対象：1年生400名 全体学習 @鶴嶺高校体育館
- ◇第一部：ゲスト BENIRINGO
- ◇第二部：海で活動する3団体の紹介映像視聴
(湘南ウキブイ・サーフ90 茅ヶ崎ライフセービングクラブ・認定特定非営利活動法人 O'ceans Love)



ボランティア塾は、高校生の「知りたい」と市民活動団体の「伝えたい」が出会い学ぶ機会です。

昨年はコロナウイルス感染症対策のため中止になりましたが、今年は開催できる可能性を見据え、第二部では災害・福祉・こども・文化・環境・国際・スポーツの分野から15の市民活動団体の参加表明がありました。しかし、第5波を受け、市民活動団体との対面授業は中止となりました。

<第一部/自由な選択～出逢って一年の2人のはなし～>

ゲストは、生徒が身近に等身大に感じられるよう、茅ヶ崎を拠点に活動している20代ふたり。BENIRINGOの田中さん、阿部さんはフリーペーパーやInstagramで環境問題や社会課題について発信しています。

田中さんは高校生の頃SDGsを知り、まずは自分の周りに広めようとフリーペーパーを発行。卒業後はアルバイト代を発行費用に充てて発信してきました。阿部さんは、高校卒業後、海外でボランティア活動をする中で学びの大切さを知り改めて大学に進学。都内で人権問題について考える音楽イベント開催などの活動を始めた頃にコロナ禍となってしまいましたが、地元茅ヶ崎で共通の思いを持った田中さんと出会い、BENIRINGOとして、ふたりで活動するようになりました。

現在の活動テーマであるプラスチックごみ問題、高校生にも身近なペットボトルのことや食品ロスにも触れ、クイズを織り込みながら、世界的な環境問題を自分事として考えるきっかけとなる話に、生徒たちも熱心に耳を傾けていました。



◎生徒のふりかえり（一部抜粋）

- ・高校を卒業したら進学するか就職かの2択だと思っていたが、自分の今したいことを、周りを説得し、していることがすごくカッコイイと思った
- ・進路がなかなか決まらないからどちらにも進まないという決断をした勇気がすごいと思った
- ・自分の意志で決めたり、好きなことを見つける、好きなことを大切にすることが必要だと思った
- ・外国はもちろん、沖縄や北海道など日本の通り所すら行ったことがない自分は、狭い世界で、狭い選択の中から選んで、日々過ごしていると思った
- ・好きなこと(興味)から始めたことが色々な人の心を動かして繋がっていけることに感動した。私も行動力のある、人を動かすことのできる人間に将来なりたい
- ・インスタ、フォローしました！
- ・「直感」を信じることは私も思っていたことなのでとても共感した。その時自分がやりたいと思ったことは挑戦したい
- ・食べ物を捨てる人と食べ物不足で命を落とす人がいる～食べ物をお互い必要な分だけ輸送などで送れば防げる
- ・「飢餓や環境問題で苦しんでいる人の生活は私たちの生活の身近にある」という話で、私たちが豊かな生活をしている裏で、きれいな水を飲めずに苦しんでいる人、環境問題で苦しんでいる人がいることを忘れてはいけないなと思った
- ・町から川に流れているごみが沢山あるとは知らなかった
- ・ペットボトルの分解に400年の時間がかかることを知って、マイクロプラスチック問題の深刻さを理解できた
- ・スラム問題や貧困など世界の大きな問題は自分たちには解決できないけど、プラスチック削減など身近なものであれば協力できると思う
- ・一人がやるだけでは何も変わらない、というのではなく、一人がやり続けることで他の人にも広がり、必ず良い影響があると思った
- ・自分たちはCO₂の排出など、直接的に関わってないから身近に感じないかもしれないが、実際のところそれらが全体に大きく関わってくるので、安全に暮らせなくなるのは自分らのせいでもあった

- ・魚や海の生き物がペットボトルのごみなどを摂取してしまい、それが人間の体に入っているということを聞いてとても驚いたし、怖いことだなと思いました。なので、そういった自然環境の崩壊を防ぐためにも、身近にできるペットボトルの量を減らすということはとても大切なことだなと思った
- ・マイクロプラスチックが生物の体内に入ってしまった⇒人間も1週間にクレジットカード1枚分くらい入れていると知って驚いた
- ・ペットボトルを買う本数を1本減らすだけでも鶴嶺の1年生が全員がやることで400本近くのペットボトルが減らせるのだから小さなことでも始める価値はあると思った
- ・CO₂を減らそうとしているのに、なぜ横須賀に火力発電所を作るのか
- ・火力発電を今つくろうとしたり、プラスチックを火力発電の燃料にしているのは違うと思った
- ・ペットボトルのリサイクル率は高いけれど、燃料にしている率も高く、CO₂の問題になっている。ペットボトルからペットボトルを作れるように改善が必要だと思う。
- ・化石燃料の使用量を減らすという考えは良いと思ったが、化石燃料の使用を完全にやめるのは絶対にだめだと私は考える
- ・日本だけでなく、他の国の情報を詳細に欲しい。～産業部門や他のごみの関係を話してほしい。～火力、または石油などを悪としているが、火力などを止めると、わたしたちは生活できるのでしょうか？
- ・今、温暖化をどうにかしないと未来の世代に申し訳ない
- ・地球を汚している原因はほとんどが人間だから、人間が地球に悪影響を与えている行動を抑えれば、地球の課題を緩和できると思った
- ・問題は山積みだということを経験を通して理解した

Chigasaki Support Center 茅ヶ崎市民活動サポートセンター
ちがさきサポセン



<第二部/紹介映像視聴>

昨年、コロナ禍で対面授業が中止になる中、市民活動団体の想いを伝えたい、とサポセンがボランティア塾用に34分のDVDを制作。3団体からのメッセージ映像と代表コメント、先輩コメントに加え、東日本大震災直後、被災地に笑顔と元気を届けた鶴嶺高校先輩たちのエピソードや写真なども紹介しました。

～映像を見た生徒のふりかえり～

◎ハチドリの一としずく (サポセン大学生スタッフ作のアニメ)



くちばしで水のしずくを一滴ずつ運んでは火の上に落としていきます

- ・「私は私にできることをしているだけ」というセリフはどこの場所に行っても言えることだと思った、自分のモットーにしたい
- ・自分は意味があるかを考えてしまう～メリットがあるか無いかでやるかやらないかを決めてしまう
- ・他の人たちに助けを求めることも大事だと思う
- ・棲んでいる森を大事にしたい、救いたいという思い。一滴の水でも変わるかも、というのが凄く心に感じるものがあった
- ・何よりも大事なのは自分の命でありそれを危険にさらすことは違うと思った
- ・ハチドリに対して他の動物が否定するのが悲しかった
- ・動画が印象的

◎被災地(南三陸)へ笑顔と元気を届けた先輩たち



2012年2月



2012年8月

- ・こんなにも身近で東日本の復興を手伝っている先輩たちがいたなんて初めて知った。自分がもう少し大きかったら現地に行き、笑顔が届けたかった
- ・人から与えられるだけでなく、自分で考え行動することが大切。感じたことからすぐに行動したことに共感した
- ・たくさんの人を笑顔にできて、とても楽しそうだった
- ・先輩がすごいと思った➡こういう人みたいになりたい
- ・一番関心が強かった。私も震災で困っている人や、苦しんでいる人のためにできることはないか、探してみようと思う
- ・被災地のボランティアと言えば炊き出しやガレキの掃除などのイメージがあったが、ショーと一緒に遊ぶことで楽しんでもらい笑顔になってもらうこともボランティアにつながるんだと感じた
- ・自発的に被害のあった地へ足を運びたい、何かできることをしてあげたい、というのが人間として憧れた

- ・募金だけでなく、もっと知っていこうと思いました

◎海で活動する3団体

▶海岸清掃団体湘南ウキブイ



- ・ボランティアはまじめにやらないといけないと思っていたので、楽しんでいいと知ってボランティアに対する考えが変わった
- ・早く自分もそうじしに行きたいなと思いました
- ・ボランティア塾を受けて、実際に行動に移した先輩がすごいと思った
- ・活動に、学生がたくさん参加していると言っていて、学生でも地球を守ることはできるんだなと思った
- ・楽しく活動することで、続けられると思う。データの結果など、目に見える活動がとても良いと思う
- ・仕分け作業は、細かくて分けるのが大変そう
- ・たくさんの方が参加して、楽しみながら海をきれいにしている。とても良い
- ・交流の場という意味でも、すごくすてき。外国の人とでも仲良くなれる気がする
- ・多くの学生が参加していることを知ってなんだか心強くなり、自分も機会があったら参加したい
- ・私は学校でしか取り組んだことがない
- ・視覚的に訴えると、人に響くことがより多いと思うのですごく良いと思いました
- ・まじめにすることよりも、多くの方が取り組んで、一つでも多くのごみを拾うことが大切だと思った
- ・ごみは海にも生き物にも悪影響を及ぼす

▶サーフ 90 茅ヶ崎ライフセービングクラ



- ・ボランティアを続けていくのはとても大変なことだけど、諦めなければ良い結果になると思う
- ・自分の好きなこと、得意なことからだったら気軽に参加することができて良いと思う
- ・海に行った時、くらげに刺されて痛くて動けなかった時に、近寄ってきてくれて、手当てしてくれたのはライフセーバーの人達だったので、とても感謝しているし、やっぱりこの人たちは必要だなと思いました
- ・海のことのみじゃなくて医療のこと、サーフィンの技術などいろいろなことが学べてとてもやりがいがありそうだなと思いました
- ・求められているから、大変なことでも続くんと思った。ボランティアは一気に盛り上がって、終わってはいけない。続けることが大切だって言葉がすごい印象に残った
- ・継続していかなければいけないということは、現代の私たちが考えていかなければいけないと思った
- ・「必要とされているから続ける」というのが、とても心に響いた
- ・楽しい海のために必須だ
- ・頼りにされると人は自分から動けるようになる



▶認定特定非営利活動法人 Ocean's Love

- ・様々な人が幸せそうにしている、これが本当のバリアフリーと思えた。ボランティアは少しかしこまったイメージだが、遊んでいる時のように楽しそうで、若い人や子どもたちがボランティアをして差別や偏見をなくすことのできる未来になって欲しいと心から思った
- ・関わる全ての人喜びを共有できる環境づくり 体の不自由、障がいのあるなしに関係なくボランティアを通して誰もが嬉しい気持ちになる 大変だけれど差別をなくすため、考え方を変えるために続けている人達を本当に尊敬するし 凄いと思いました
- ・将来、ユニバーサルデザインのアイテムのデザインを考える仕事に就きたいと思っている
- ・やさしさ、責任感、勇気、感謝などみんなが笑顔でほっこりした
- ・まだ多くの人はいろいろなことを知らないで差別がまだあるのだと思う。ボランティアに参加すると良い
- ・最近ニュースで小さな子が虐待を受けて亡くなっちゃったのを見て「自分はその子がどれだけ辛い思いをしたのかわからないな」と感じました。今日知ったボランティアに参加して、1人でも笑顔にできるようにしたいと思いました

- ・障がい者の方も分け隔てなくさんかできるのは、これからの世の中の的にももっと広がって欲しい
- ・福祉についてもよく学びたいと思います
- ・海の遊びを通してたくさんの方が触れられる場があることが、とても素敵だと思いました
- ・すべての人がとても楽しそうに活動していて（動画の文字は目が悪いのでわからなかったのですが）動画の映像のみでも楽しそうな風景がうかがえて、とても良いことだと感じました
- ・海はどんな人でも平等になれる場所だ
- ・映像で流れていた一つひとつの言葉、やさしさ、勇気、戦略、思いやりとかが、今の子どもたちの未来を変えようと思うと、この活動をもっと広めていきたいという思いに共感しました。障がいのある人への差別、偏見はなくなるのが現実だし、でも「なくすため」に自分ができることはたくさんあると思うから、自分もこのような活動を知ることができて良かった
- ・同じ人間なのに、差別があることが信じられない

◎全体を通して

- ・16年間茅ヶ崎に住んでいるのに、全く知らないことばかりだったので、もっと積極的に調べたり、参加してみることも大切だと思いました

▷「ボランティア塾」実施後の取り組み ～生徒たちのホットな気持ちを受け止めたい！

塾終了後の「生徒ふりかえり」には、同時配付した「高校生でもできるボランティア一覧」から希望を書き込んでもらう欄があります。希望した生徒（今回は31名）には先生を通して参加の意思確認をしたのち、サポセンにてオリエンテーションを行います。

やりたい気持ちがあっても、部活や塾など時間的制約によりできないケースもありますが、これまでに、学習支援やこども食堂、こどもの居場所、海岸清掃など、様々な活動先をコーディネート。中には長く続ける生徒もいます。

今すぐにでなくても、将来のどこかでボランティア塾の感動を思い出してもらえたらと期待しながら、400名分のふりかえりすべてに目を通し、参加団体にもフィードバックしています。

「ボランティア塾」は、市民活動団体から言えば高校生に直に活動を伝える機会。高校生からは団体の熱い思いを直に聴く機会。自分が学び、暮らすまちで活動する身近な人たちの新鮮な生き方、考え方を知り、改めて自分自身の進路の選択肢について考えるきっかけとなる授業を目指しています。塾終了後も情報提供をしながら、思いを持って一歩踏み出した若者たちをバックアップしていきます。